

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
第114号

吉備中央町に図書館2館誕生！

岡山県の中心部に位置する吉備中央町は、農業を主な産業とし、教育・福祉・文化の中心を目指す「吉備高原都市」を擁した、人口12,914人(2012年3月末)の自然豊かな町です。

2011年12月13日に、旧町単位で2つの小さな図書館を同時オープンすることができました。

かもがわ図書館は、加茂川庁舎1階の空きスペース(198㎡)に新設しました。床は靴音防止や温かさをだすため絨毯貼りとし、見通しの良い低い書架を設置しました。絵本コーナーは親子がリラックスできる畳敷きで、窓の多い明るい図書館となっています。



〔かもがわ図書館での読み聞かせ〕

ロマン高原かよう図書館は、賀陽庁舎隣のロマン高原かよう総合会館2階図書室をリニューアル(224㎡)し、書架や床面に木の温もりを活かした明るい図書館となっています。また近くの小・中学生の利用が多い図書館であるため、児童コーナーや学習スペースを充実させました。

両図書館には観葉植物を各所に置き、心安らぐ空間づくりにつとめています。

蔵書数は、両図書館で26,387冊(2012年3月末)、図書館オープンより2012年3月末までの約

3ヶ月間で延べ3,620人の利用者があり、延べ13,513冊の資料貸出がありました。



〔ロマン高原かよう図書館館内〕

本の選書については、限られた予算の中で、利用者のニーズを把握しながら、利用頻度の高い部門の本を整え、県内図書館の協力をいただきながら住民サービスに努めたいと考えています。

図書館主催行事としては、乳幼児と保護者を対象とした、司書による「おはなしのへやくおいでおいで」を毎月2回(第2木曜日-かもがわ図書館、第4木曜日-ロマン高原かよう図書館)開催し、幼児から小学生を対象とした、町内おはなしボランティアグループによる「おはなしのへやくわくわく」を毎月第3土曜日に、両図書館で交互に開催しています。また、「おとなの朗読会<浪漫名作劇場>」を開催したところ、大変好評を得、今後も開催を予定しています。

たくさん本を借りられる方にマイバッグを持ってきていただこうと、「手縫いマイバッグづくり講座」、関心の高い「折り紙講座」など、町民のニーズを把握しながら、親しまれる図書館づくりに努めています。

2012年4月1日よりインターネット予約を開始し、また広域で交通機関の不便な町民にも図書館の本を利用していただこうと、本の配送サービスを開始しました。地域の拠点である7つの公民館と吉備高原都市内にある教育委員会まで、毎日

(土・日・祝日除く) シルバー人材により図書館の本を配送し、返却本も回収しています。

高齢化率の高いわが町では、高齢者の集いが各地区で開かれており、その集いへ図書館の司書が招かれ、大人の読み聞かせも行っています。

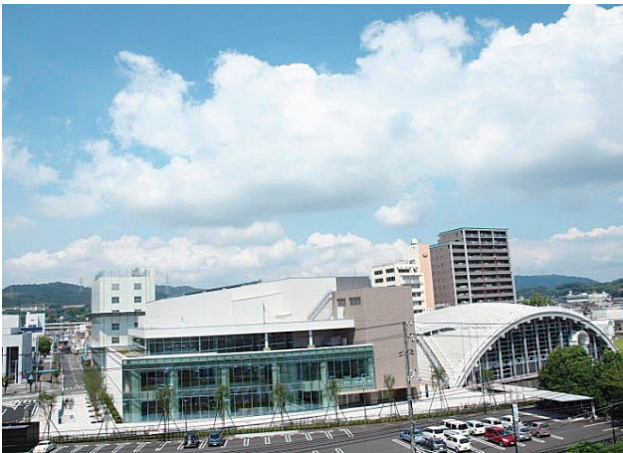
これまで図書館文化に親しむ機会が少なかったわが町で、1人でも多くの方に本の、そして図

書館の魅力をいかに伝えていくかが今後の大きな課題となっています。小規模図書館ではありませんが、本と人とが出会い、人と人とが会う、そして職員が声かけに努め、頼りになる、親しまれる、心休まる図書館でありたいと考えています。

(吉備中央町立図書館 岩木安恵)

倉敷市立児島図書館新築移転開館！

児島地域の市民にとって、老朽化した児島図書館の建替えは10数年来の懸案事項の一つであったのは間違いありません。



[児島図書館新館外観]

平成18年、「(仮称)児島市民交流センター整備事業推進プロジェクトチーム」が設置されてから5年後の平成23年10月1日、児島図書館は公民館・労働会館・働く婦人の家等の機能を統合した、倉敷市児島市民交流センター内に新築オープンしました。

児島市民交流センターは、文字通り市民が交流することにより地域を活性化させようという目的で設置されました。図書館は、その主たる施設として期待されています。

平成23年10月～3月の半年間の利用状況は、前年同時期に比べ、入館者数1.6倍、貸出人数1.4倍、貸出冊数1.4倍となっています。新規登録者数は、3.4倍となり期待の高さがうかがえます。以前からの利用者に加え、この新規登録者

にリピーターとして定着していただけるよう努力せねばなりません。

旧図書館と比較して、延床面積は1.7倍の2,671㎡、利用者用スペースは2.9倍の2,374㎡、収蔵能力は約20万冊あり、倉敷市内の地区館の中では、最大の規模になりました。

施設面でも授乳室や対面朗読室、念願だったお話コーナーもできました。子育て支援・ビジネス支援・闘病・ヤングアダルトの各コーナーを新設しました。

郷土関連資料の充実も大きな課題ですが、児島の郷土史はもちろん、地元の主要産業である繊維・縫製・ファッション関連の資料、塩・海・橋に関する資料等を集めて「児島コーナー」を設けました。



[児島図書館新館館内]

1階には、児童コーナーと子育て支援コーナー、一般書の文学と医学・家事に関する図書と視聴覚コーナーを配しています。

2階には、その他の一般書を配置、レファレンス資料コーナー、郷土関連コーナー、ビジネスコーナーがあります。

オープンと同時にICタグの蔵書管理を開始し、また、朝の開館時間を交流センターの開館

に合わせ9時にするなど利便性の向上に配慮しました。複合施設としての長所を最大に生かし、多くの人々に交流してもらえらる運営を目指しています。

一般室に並ぶ書架の側板は、児島の特産ジーンズに因み紺色になっています。これに象徴されるように地域に根ざし、地域に貢献できる図書館、そして市民生活に役立つ図書館が私たちの目標です。

(倉敷市立児島図書館 中村美小代)

一日こども図書館フェスティバル in くらしきを開催しました。

平成23年11月20日(日)、一日こども図書館フェスティバルが開催されました。

この度のフェスティバルは、平成23年10月1日に開館した新児島図書館のオープン記念と、岡山県図書館協会の60周年記念を兼ねた、盛大なものとなりました。

児島市民交流センター図書館棟3階にあるジーンズホールでは、開会セレモニーとして、「一日こども読書大使任命式」「全国優良読書グループ表彰」「岡山県読書推進表彰」が行われました。

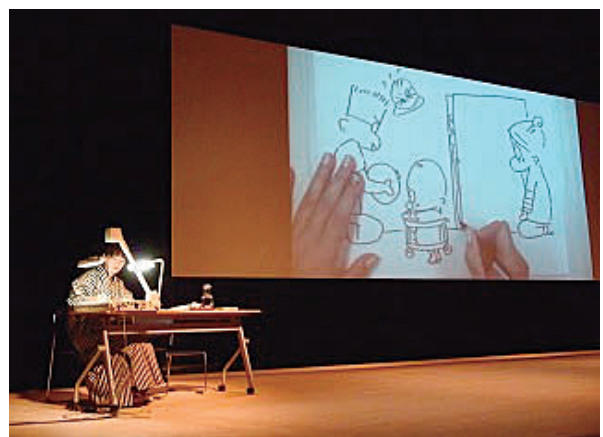


[倉敷市立短大子どもの劇場]

その後、倉敷市立短大子どもの劇場による劇の上演と、育児マンガが人気の高野優さんによる「高野優の元気が出る子育て応援講座」が開かれました。高野さんのお話は笑いあり、涙ありの講演で、終了後のサイン会までたくさんの方に参加していただきました。図書館と交流センターでは、わらべうたや読み聞かせ、マジックショーやスライム作り、新しくなった図書館のたんけんクイズほか、赤ちゃんから大きい子まで、みんなが楽しめるイベントを盛りだくさんに用意しました。どのイベントも大勢のこどもたちで賑わいました。

また地元書店の協力により、児童書の販売を行ったり、児島おかみさん会によるフードコーナーも設置しました。地元ならではのたこめしや、自分で作れるわたがしもあり、友達や家族と一日楽しく過ごすこどもたちの姿が見られました。

この機会に、予想を大きく上回る大勢の人に、図書館に足を運んでいただけたことを、とてもうれしく思っています。



[高野氏講演会]

またフェスティバルの開催にあたり、準備段階から多くの方々にご協力をいただきました。大変感謝しています。ありがとうございました。

(倉敷市立児島図書館 森山康子)

創立60周年記念事業（報告）

平成23年10月17日に岡山県図書館協会は創立60周年を迎えました。その創立60周年を記念して次の行事を行いました。

■記念講演1

ムツゴロウ！大いに語る～図書館大好き～

講師：畑正憲氏

(作家)

日時：平成23年

10月23日

13:30

～15:20

会場：岡山県立図書館

参加者：168名



[記念講演チラシ]

定員150名を大幅に上回る371名の申込みがあり、急きょ抽選を行い、更に別室で同時上映を行うほど多くの方に参加していただくことができました。

ムツゴロウの愛称で親しまれた畑氏には、ゴリラやライオンなど世界各国のたくさんの動物たちとの体験談や、動物に関する外国の本の翻訳にまつわる作家としてのお仕事の話などを、身振り手振り鳴き真似を交えながら、ユーモラスに語って頂きました。

■記念講演2

高野優の元気が出る子育て応援講座

講師：高野優氏（育児漫画家）

日時：平成23年11月20日 13:30～15:30

会場：倉敷市立児島市民交流センター

参加者：104名

一日こども図書館フェスティバル in くらしきと同時開催で行った2回目の記念講演会は、児島産のジーンズで作られた緞帳が特徴的なジーンズホールで行いました。

高野氏自身の子育て体験を中心に、即興で絵を

描きながら楽しいお話をしていただきました。講演後は時間が足りなくなるほど活発に質疑応答がされ、会場は笑顔あふれる和気あいあいとした空気に包まれました。

■記念講演3

わたしの図書館人生

講師：秋田征矢雄氏

日時：平成24年3月12日 14:00～16:30

会場：岡山県立図書館

参加者：66名



[秋田氏講演会]

戦後の岡山の図書館界を引っ張っていった秋田氏の図書館人生について、熱く語っていただきました。概要は7月に送付した岡山県図書館協会創立60周年記念誌に掲載しておりますので、是非ご覧ください。

この講演会の後懇親会を行い、OB図書館員も含め大いに盛り上がりました。

■記念パネルの作成・展示

「そうだ、図書館へ行こう！」をテーマに、企画委員の方にご協力頂きながら14枚のパネルを作成しました。

10月22日～11月9日には岡山県立図書館のエントランスホールに、11月20日～1月26日には倉敷市立児島図書館内で展示を行い、協会60周年をPRしました。

パネルは創立60周年記念誌にもカラーで掲載していますのでご覧ください。

■60周年記念事業のPR

60周年記念事業のPRポスターを作成し、県内図書館等に配布しました。

また、県内のサークルKサンクスにも平成23年9月19日～10月2日に掲示していただきました。更に、朝日新聞及び岡山日日新聞で記事の掲載、「ももっちらっち 晴れの国TV」でもPRをさせて頂きました。

どこかでご覧いただきましたでしょうか。



[記念事業ポスター]

■岡山県図書館協会 60周年協賛事業

協会60周年記念と共に気運を盛り上げるために開催される事業等を対象にした協賛事業の募集を行いました。

その結果、県下13の事業の協賛を行い、館種を超えたPRを行うことができました。



[協賛事業ロゴ]

■創立60周年記念誌刊行

創立50周年記念誌に続く、60周年記念誌を一年がかりで作成し、平成24年6月30日に刊行することができました。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。

■協会ホームページリニューアル

岡山県図書館協会のホームページを移転するとともに、レイアウトを一新しました。

新URL :

<http://www.libnet.pref.okayama.jp/libnet/ke/ntok/>

ご意見・ご感想等随时お待ちしております。

(事務局)

県図協セミナー（第1回）に参加して

インターネットで使えるレファレンスツール

講師：国立国会図書館関西館 文献提供課

小川那瑠氏 中島美奈氏

日時：平成24年6月4日 13:30～16:00

会場：岡山県立図書館

今回のセミナーは、テーマに関心があったことと、今年度から県図協の企画委員になったこともあり、参加しました。

セミナーの内容は、まず①国立国会図書館サーチ、②国立国会図書館デジタル化資料、③リサーチ・ナビ、④NDL-OPACについての講義があり、幅広く探したいときには、国立国会図書館サーチで検索、個々に細やかな検索がしたいときには、各ツールを検索という基本的なポイントや、各ツールの収録対象や調べ方を聞きました。そして、その後PCを使用するの演習が行われました。

講義だけでなく限られた時間の中でも演習があったことで、実際に探し方や結果の見方を確認できるとともに、漠然と探し方は思い浮かんでも、検索のキーワードが上手く設定できなかつたり、リサーチ・ナビの分野の選択に戸惑ったりすることに気づきました。今後実際に利用して効率的な探し方を学んでいくことはもちろん必要ですが、まずその第一歩として今回参加できて良かったと思います。

(津山工業高等専門学校図書館 中山千佳子)



[県図協セミナー（第1回）の実習風景]

☆個人会員紹介☆

笠岡市立図書館 原田恭江さん

「船長！船は出るんですか！？」

図書館ではあまり聞かない台詞です。ですが、これまで何度この言葉を叫んだことでしょうか。

生まれ育った笠岡の地で図書館司書になり10年。市内でも町っ子として育った私が最初に知ったことは、「笠岡には海も山もある」ということでした。

笠岡市立図書館で最も特色のあるサービスといえば「島しょ部への配本」があげられます。毎月1回、市艇しらさぎで市内の有人島を回っているのです。島の公民館へ持って行く本は図書館司書が、島の小学校へ持って行く本は学校司書が選んでいます。「配本」なので、港で本の受け渡しをするのみ。島の利用者の方と直接やり取りをすることは無いのですが、リクエストや要望を見ながら、「こういう本の需要があるの

か」と勉強の日々です。そして、海ならではのトラブルも発生します。高波による船酔いで職員がダウンしたり、強風で船が引き返したり、ときには出港できないことも何度かありました。

陸地部では、移動図書館車かぶとがに号の巡回を行っています。笠岡市は南北に市域が広いので、市内全域のサービスを行うために移動図書館はかかせません。毎月8日間、市内の27ステーションを回っています。ときには急こう配の細い道を分け入り、各地域で本を提供しているのです。特に小学校でのかぶとがに号人気は高く、40分間に300冊返却&300冊貸出というハードな場所もあります。

月に1度しか手渡すことができない島しょ部や図書館から離れた地域だからこそ、「本がきた！」という喜びが強いのだと、10年経た現在も感じています。

待っていてくださる方の期待に応えるために、これからもより良いサービスと職員の笑顔をお届けしたいと思います。

☆個人会員紹介☆

岡山市立妹尾中学校 古市絵美子さん

○いつも図書館は何かやっているよ！！

中学校の学校図書館の司書となり、今年で5年目になります。職種はかわっても中学校に13年ぶりに勤めることになり感じたのは、先生や生徒がとても忙しそうということ。時間がない、忙しいと思っている（思っているだけ？）生徒がわざわざ本校のように本館から遠く離れた図書館にくるには仕掛けが必要です。

○来てよかった！！

読みたい本がある生徒は時間のやりくりをしていつでも図書館にやってきます。いろんな生徒が集まるのは昼休みです。なんとなく友達と連れだって来るのを楽しむ生徒、昼休みはこの本を読もうと思って来る生徒、次の移動教室に近いから寄ってみたという生徒など、動機はいろいろ。どんな生徒がいつ来てもなんだか新鮮、来てよかったと思える図書館でありたいと思っています。普段から図書館のワクワク感が伝わるように入り口に喫茶店のごとくイーゼルをたてかけ図書館は開館中をアピール。

時事的なこと、季節的なこと、一年間を通じてのテーマ展示（今年はエネルギー

一問題、原発問題)、授業に関連した展示、委員会と合同の企画など絶えず動く図書館を作ろうと思っています。



【今年の学芸祭の図書委員会の展示：宇宙・星・地球～一人ひとりの輝き】

○元気な図書館であるために

そのためには自分が元気で好奇心を絶やさないこと。それがいつも活動している図書館である一番のポイントです。

☆活動紹介☆

県立大学 選書ツアー

「図書館ばなれ」という言葉をよく耳にしますが、本学も、オンライン・データベースの導入が進み、図書館へ行かなくても学内から調べものや検索が可能になりました。しかし、書物を読んで知識を得るといふ昔ながらの図書館の利用法は学生にとって基礎的な学力をつけ、考える力を養うために大切なことには変わりはありません。本学図書館ではここ数年、入館者数は増加しているものの貸出冊数は2008年をピークに減少傾向にあります。そんな中、蔵書の拡大とその有効活用を促進する一環として、学生自身が読みたい本を書店で選べる「選書ツアー」を3年前から実施しています。

第1回目の選書ツアーは2009年11月に紀伊國屋書店で行いました。



〔第1回選書ツアーの様子〕

公募した結果、8学科から16名の学生が参加することとなりました。選書の対象は、購入後数年間は自主学習を含む学生教育に有効活用されそうな学術書としました。また、大学図書館という性格上、廉価な文庫本や娯楽、趣味性のつよいマンガや小説は除外しました。選書方法は、店頭で学生自身が本に目を通し、購入したい本のバーコードをリーダーに読み込ませるといふ方式。職員も同行し、選書の手助けをしながら、自らも本を選んだりして予定の2時間はあっという間に過ぎました。

選書ツアー後の図書館の作業は、書店から送られてきたデータの複本チェックと適切な選書であるかどうかの確認と発注。納品後は登録を済ませたものから館内に展示し同時に貸出も行

いました。特に薦めたい本については選書した学生自身のコメントを本と共に掲示しました。

この方法で今年5月まで計4回の選書ツアーを実施し、参加した学生の数は延べ70人、選書した図書は約960冊となりました。

はじめた頃は、選書ツアーといっても「なにそれ？」という反応でピンと来ない人がほとんどでした。そこで「図書館に入れてほしい本を、書店へ行って自分で選べるんですよ」と説明すると「わあ、面白そう！行ってみたい。」という声があがり、実際に参加してみると選ぶことの難しさを感じたり、思わぬ本との出会いに心が躍ったりという経験もあったようです。

参加した学生からは、「自分の選んだ本が図書館に入るのかと思うと少し緊張しましたが、自分なりに考えて必要だと思った本を選んだつもりです。(後略)」、「(前略)友人と一緒に『この本はどんなときに使える・・・』とこれまでの自分の学生生活と本について考える良い機会になりました。」、「・・・普段もっとこんな本があったらいいのと思うような本を学生が目線から選ぶことができるので、参加して良かったと思います。」など、有意義なイベントになっていると感じられる感想が多く寄せられています。

選書された本の利用調査を行っていますが、その多くがまずまずの貸出率で利用されています。選書ツアーの実施により、学生の視点から選ばれた本も加わることで、より一層親しみやすく、利用してみたいと思える蔵書が拡大すると考えています。課題もありますが、貸出冊数の増加に繋がっていくように、さらに工夫を加えて続けていきたいと考えています。



〔第4回選書ツアー参加者〕

(岡山県立大学附属図書館 山田敏子)

事務局からのお知らせ

■理事会・定期総会

平成24年度理事会を5月17日に、定期総会を6月4日に開催いたしました。当日資料及び議事録をホームページで公開しています。

平成24年度役員 (敬称・役職略)

- 会長 杉山 良暢 (岡山県立図書館)
- 副会長 大塚 利昭 (岡山市立中央図書館)
- 〃 玄馬 正雄 (倉敷市立中央図書館)
- 〃 黒瀬 英樹 (早島町立図書館)
- 〃 神崎 浩 (岡山大学附属図書館)
- 理事 大倉 淳一 (津山市立図書館)
- 〃 加藤 信二 (総社市図書館)
- 〃 山下 愛子 (新見市立新見図書館)
- 〃 栗原 雅之 (赤磐市立中央図書館)
- 〃 小椋 保 (鏡野町立図書館)
- 〃 金光 和道 (金光図書館)
- 〃 小池 将文 (川崎医療福祉大学附属図書館)
- 〃 窪津 誠 (岡山商工会議所)
- 〃 菱川 廣光 (個人会員)
- 〃 本山 雅一 (個人会員)
- 〃 池田 桂子 (個人会員)
- 〃 堀井 雄輔 (岡山県青年図書館員研究会)
- 〃 岡 長平 (岡山県立図書館)
- 監事 星尾 靖行 (備前市立図書館)
- 〃 藤井 安芳 (里庄町立図書館)
- 参与 久芳 全晴 (県教育庁生涯学習課)

■平成24年度図書館功労者表彰

個人会員として図書館業務に従事貢献した次の方を表彰しました。(敬称略)

- 片山 明浩・古賀美佳子・小西 修子
- 塚本 明美・西美 雅弘・二部野陽子
- 伏見由希子・藤本 佳子・守屋 明子

■本年度の研修

- 県図協セミナー (第1回) 6月4日
「インターネットを使ったレファレンスツール」
(P.5参照) 参加者 67名
- 県図協セミナー (第2回) 8月28日
「東日本大震災と図書館」 参加者 26名
講師 日本図書館協会 東日本大震災対策委員
吉田 光美氏
〔特別紹介〕「デジタルコンテンツの紹介と図書館での活用の御提案」
講師 国立公文書館 アジア歴史資料センター
中網 栄美子氏
- 教養講座 10月24日 参加者募集中!!
「本で結ぶ人／POPの書き方から朗読、作家

の口説き方まで」

講師 代官山蔦屋書店 人文・文学コーナー コンシ
ェルジュ 間室 道子氏

- 県図協セミナー (第3回) 2月11日 (予定)
(本の修理・補修 (製本) を予定)

■平成24・25年度企画委員

- 委員長 関 瞳 (勝央図書館)
- 副委員長 山下 達真 (金光図書館)
- 委員 末房奈芳美 (岡山県立図書館)
- 杉野 築 (岡山市立中央図書館)
- 中山 悦子 (玉野市立図書館)
- 津島 一視 (井原市立井原図書館)
- 山田 敏子 (岡山県立大学附属図書館)
- 中山千佳子 (津山工業高等専門学校図書館)

□委員長より一言□

各館と情報交換や交流ができればと軽い気持ちで出席した企画委員会。その後の驚きの結末が待っているとも知らずに…。そう、委員長を引き受けることに。何事も経験と、思い切って微力ながら頑張るって務めていきたいと思い大役をお受けしました。図書館の発展、利用者にも求められる図書館を作るためには関係各位の協力が必要不可欠です。活動にはぜひとも皆様の知恵と力をお貸しください。2年間どうぞよろしくお願い致します。(勝央図書館 関瞳)

■計報



こんこうかずみち
金光和道氏

(協会理事・金光図書館長)

6月22日御永眠。

享年66歳。

安らかに御永眠されますようお願い申し上げます。

■協会に寄付

去る8月30日、金光英子氏 (現金光図書館長) より、当協会に30万円の御寄付をいただきました。協会では御厚志に報いるため、これを「研究奨励基金」として、有効適切に運用したいと考えています。

■編集後記

60周年記念誌の編纂を終え、約1年半ぶりに会報を発刊することができました。この機会に横書きにするなど誌面を刷新しました。より良い会報にするために、ご意見・ご感想等お待ちしております。

平成24年9月30日発行

〒700-0823

岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 杉山 良暢

TEL: 086-224-1286